

職業・学科横断的な学び



産業探究プログラムは、生徒のみなさんが将来のキャリアに向けて準備をし、地域経済の発展に貢献するための重要な学びの機会です。この探究を通じて、実践的な経験を積み、様々な現場の仕事や産業の実態を理解します。また、地域の産業に関する知識を幅広く深め、地域社会における自らの役割や貢献を考える機会を得ることができます。さらに、自分自身の興味や適性を見つけ、将来のキャリア選択に備えることができます。

職業・学科横断的な学びとは

職業・学科横断的な学びとは、異なる職業や学問領域にまたがる知識やスキルを身に付ける学びです。従来の学科ごとの枠組みを超えて、生徒のみなさんが様々な分野や専門性を探究し、統合的な学びを行うことを目指しています。職業・学科横断的な学びは、生徒のみなさんが柔軟で創造的な問題解決能力を身に付け、将来のキャリアや社会参加に備えるための重要なステップになると考えています。



SANTAの目指すところ

5つの学びのフェーズ



地域経済・産業の理解

地域の経済・産業構造や市場動向を理解するためのフェーズ。地域の産業や企業の競争力を高めるためのマーケティング戦略や販売促進の手法について学びます。



産業スキルトレーニング

産業やビジネスに関する必要なスキルや知識を習得するためのフェーズ。将来のキャリアやプロジェクトに活かすための基盤を築くことができます。



イノベーションと起業家精神

地域のイノベーションと起業家精神を促進するフェーズ。新しいビジネスアイデアの創出方法やビジネスプランの策定、資金調達の方法などに焦点を当てます。



リーダーシップとチームビルディング

地域のリーダーシップスキルやチームビルディング能力を向上させるフェーズ。地域の組織やコミュニティをリードするためのリーダーシップスキルやコミュニケーション技術を学びます。



地域との協働による実践活動

地域の産業や経済に関する実際の課題に取り組むフェーズ。地域の課題に対処するための実践的なスキルや知識を身に付け、地域社会との連携や協力関係を構築し、地域の持続可能な発展に向けた取り組みを行います。



社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の育成



【目指す人物像】 **“深さ” “高さ” “広さ” を持って、地域産業の基盤となる人材**

産業の競争力を高める上で、最も重要な資源の一つが人材です。“深さ”と“高さ”と“広さ”をキーワードに、産業に関する知識やスキル、経験、アイデア、人脈等を得て、各産業の新たな担い手や、新しいを生み出す人材、地域の未来を創る人材など、地域産業の基盤となる人材の育成を目指します。



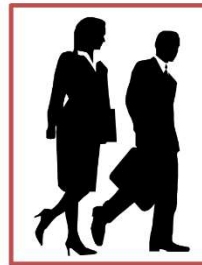
「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。

「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力」はむしろその重要性を増しており、有効ですが、「人生100年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、平成29年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。

前に踏み出す力（アクション）

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し
目的や課題を明らかにする力

計画力

課題の解決に向けた
プロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意思を
わかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に
聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の
違いを理解する力

状況把握力

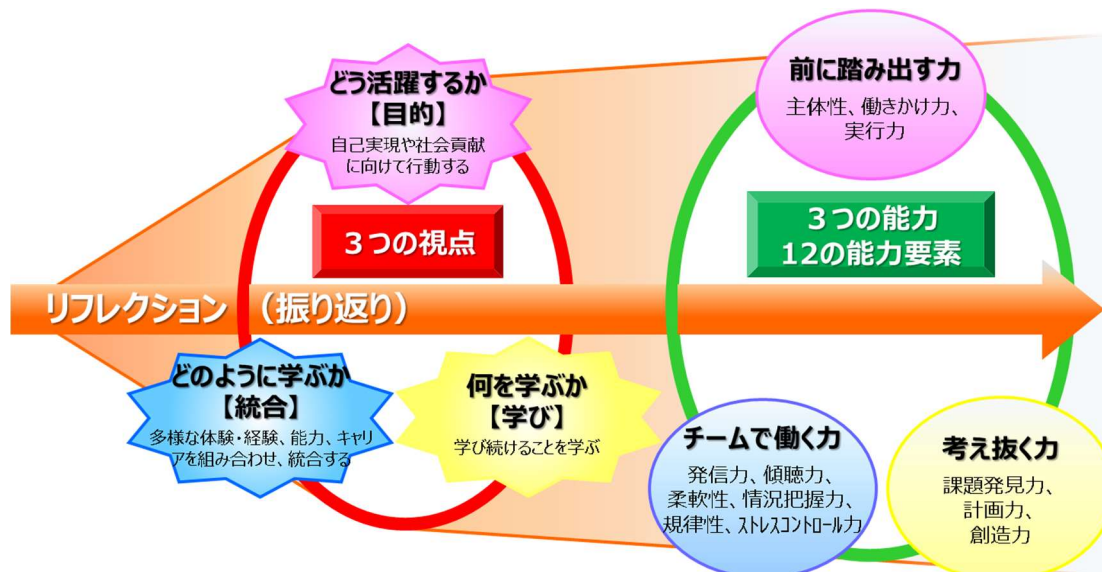
自分と周囲の人々や
物事との関係性を
理解する力

規律性

社会のルールや
人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの
発生源に対応する力



実践内容

学科訪問 @商業科

実施日：令和6年5月22日（水）9時55分～11時45分（2・3時間目）

対 象：丹原高校 普通科（3年・商業科目選択生・20名）

園芸科学科（2年・23名、3年31名）

概 要：丹原高校 普通科（商業科目選択生）と園芸科学科の生徒が合同で、商業科目「マーケティング」を題材とした講座を受講した。学科訪問は、生徒同士が異なる学科やコースを訪れ、それぞれの学科やコースについて情報を交換し、相互の学びや興味を深める取組。この活動は、学科間の交流を促進し、異なる分野や専門性に対する理解を深めることを目的としている。

（講座の流れ）

【概要説明】 ○担当教諭による学科や教科の学びについての概要説明



- ・高校の商業教育について
- ・資格取得・全商協会について
- ・丹原高校での商業教育について

【学び体験】 ○普段行っている学科・教科の実習等を体験

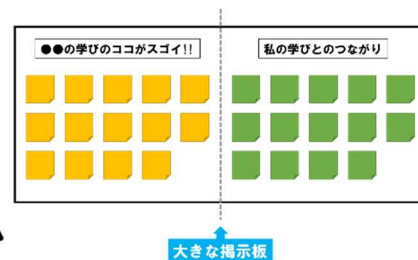


- ・ビジネスとは？
- ・マーケティングとは？
- ・売れる仕組みづくりに挑戦！
（STP、マーケティング・ミックス）

【意見交換】 ・異なる学科を混ぜた班を編成



- ・受講・体験をした学科の「スゴイ！」について協議
- ・受講・体験をした学科と、自分の学びのつながりについて協議
- ・大きな掲示板に付箋を貼り、意見の共有



実施日：令和6年5月～

対象：小松高校 ライフデザイン科・東予高校 機械科・丹原高校 普通科・園芸科学科

備考：小松高校・東予高校・丹原高校の3校合同で、防災教育の推進や地域防災力の強化を目指して、「防災ベンチ」の制作および活用イベントを実施する。この「防災ベンチ」はバーベキューコンロが付いており、普段はベンチとして利用しつつ、緊急時は調理にも使える。東予高校の機会科主導による制作活動を行い、活用イベントには丹原高校・小松高校の生徒も参加する。

地域防災 学校垣根越え

西条の丹原・東予高生

こんろ付きベンチ 初の共同製作

西条市の丹原高校と東予高校の生徒が、防災をテーマにした共同の取り組みを進めている。両校の強みを生かした地域防災力の強化が狙いだ。2026年度に小松高校を含む3校の再編による新校開校も見据え、学校の垣根を越えた交流を目指している。

丹原高の3年生5人、高の防災ベンチはバーベキューこんろが付いた。東予高が3年前から取り組む防災ベンチの製作に、初めて丹原高生が参加している。東予高は、金属板の切断やドリルを使った穴開けを丹原高生が体験し、東予高生はサポート。互いに協力して作業を進めていた。



防災ベンチの部品製造を体験する丹原高生（左）とサポートする東予高生

モデル地域研究事業」の拠点校になり、近隣の小中高校、地域住民と連携した避難訓練や避難所設営体験などを計画している。その一環で、生徒同士の交流を兼ねた防災ベンチの共同製作を始めた。今後は防災ベンチを完成させ、秋に実施する避難所設営体験に活用する。体験には東予高生も参加する予定。

生徒も共同活動の利点を感じている。丹原高の曾我花梨さん（17）は「防災意識を持つようになった。他校生との協力から、いろんな視点や考え方を知ることができ」と語り、東予高3年の伊藤瑠稀さん（17）は「普段の作業を誰かに教えることは、自分のためにもなる。別の高校のみんなが工業に興味を持つ機会になれば」と話した。

（高橋圭太）